

雨の二寧坂

清水（きよみず）上がる 二寧坂
小雨にしっとり 濡れそぼり
霞む景色に 佇むあなた
軒を連ねる 店先の
潤む灯りも はんなりと
飾り小物が 色をなす

行き交う人も ゆったりと
古都の風情に 身を委ね
浴衣姿も 墨絵のような
かざす和傘（かさ）さえ 艶めいて
下駄音響く 京の宵
二人連れゆく 二寧坂

宿まで辿る この道を
夜霧がうっすら 包み込み
幻想的に 醸（かも）し出す

ああ 二人秘かに 二寧坂
二人秘かな 二寧坂